

# The Kamenori Community かめのりコミュニティ

公益財団法人 かめのり財団は、日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を通じて、  
未来にわたって各国との友好関係と相互理解を促進するとともに、  
その架け橋となるグローバル・リーダーの育成を目的に事業を行っています。

 公益財団法人  
**かめのり財団**  
Kamenori The Kamenori Foundation

2017年11月 No.26

かめのりスクール2017「かめのりスクール@東京」



## 今号の内容

- ◇ かめのり地球青少年サミット 2017 (KEYS2017)
- ◇ かめのりスクール 2017
- ◇ 大学院留学アジア奨学生 夏の研修交流会 in 広島
- ◇ にほんご人フォーラム 2017
- ◇ ベトナム高校生にほんご人 100人訪日事業
- ◇ ベトナム中学生日本語キャンプ 2017
- ◇ 高校生短期交流プログラム
- ◇ 高校生カンボジアスタディツアー
- ◇ 講演会

## かめのり地球青少年サミット 2017 [KEYS2017]

2017年8月16日～22日の8日間、日本、中国、香港、韓国、タイ、フィリピン、ベトナムの7地域・国から計32名の大学生が参加して、香港中文大学ユニテッドカレッジに於いて「かめのり地球青少年サミット2017」(KEYS2017)が開催されました。今年のテーマは、「Current Issue and Prospects for Tomorrow's Asia: Towards "One Asia"」(アジアの将来に向けた課題と展望 ～ワン・アジアを目指して～)。ノーベル賞受賞経済学者 Prof. Sir James A. Mirrlees の基調講演を始め、各国からの講師も多数参加して学生たちをサポートし、充実した会議となりました。

KEYSに参加するアジア各国からの選抜生たちとサポートする先生方



詳細は次ページにてご紹介します。

## かめのり地球青少年サミット2017 [KEYS2017]

### 多様性の中「One Asia」を目指して

KEYS2017は香港中文大学側のKEYSコミティメンバーの強力なバックアップ体制のもとに始まりました。各国から香港に到着したばかりの参加学生たちの顔には緊張感がにじみ出ていましたが、香港中文大学の学生たちが準備してくれていた自己紹介・ジェスチャーゲームといった「おもてなしディナー」のおかげで、すぐに和気あいあいと打ち解けました。

2日目以降はProf. Sir James A. Mirrlees、Prof. Takanori Kitamura、Dr Amintendu Palitの先生方による講演や議論を通じて、学生たちは東アジアに内在する格差の問題、貿易をめぐる問題、東アジアの地域統合の可能性などについて学び、考える機会となりました。また、学生たちはそれぞれの出身国の歌・踊り・流行などを紹介しあいながら相互理解を深めるとともに、いよいよ本格学習に着手しました。

参加学生たちはKEYS2017コミティーの指導の下で経済・教育・環境・政治社会の各グループに分かれて事前学習を行っていましたが、香港で初顔合わせとなり、Prof. CHENG Si、Prof. LEE Hung Kay、Prof. Bryan MERCURIO、Prof. Stephen NAGY、Prof. Stephen WONGの先生方の指導を受け、各グループで議論しながら学習を深めていきました。

グループ学習の合間にはWWFの海下湾海洋生物センターを訪れ、自然環境問題の現状と課題について考え、さらに香港の複雑な民族構成を象徴する場として有名な「重慶大廈」を訪問し、Prof. Gordon Mathewsに解説していただきました。そして香港に暮らしている難民の方たちと会食をしながら彼らの生の声を聞かせてもらうという貴重な時間を過ごすことができました。ヨーロッパがこれ以上難民を受け入れられない状況となっている今、難民がいろいろな形で香港の中心部にも漂流しているという現実に、学生たちも衝撃を受けていました。

最終日には学生たちは、かめのり財団創設者康本健守の寄贈施設であるThe Yasumoto International Academic Parkでこれまでの学習成果を披露し、1週間の努力が実を結びました。Jockie Clubでの晩さん会、そして学生寮での2次会も大いに盛り上がりました。

寝食をともしながら議論したこの絆を未永く維持し、参加学生たちがそれぞれ「One Asia」へと歩みを進めてほしいと切に願った2017年夏でした。

報告：かめのり財団評議員 上原史子



指導教授も学生もアジアの課題について共に考える



学生たちも積極的に質問



ノーベル賞受賞の経済学者  
ジェームズ・マーリース先生



元香港総領事・中文大学教授の  
北村隆則先生



日本の現状・課題について発表する日本チーム



多様な人種が集まる「重慶大廈」も訪問し、難民の話も



このイベントを支えてくれた香港中文大学の学生さんたち



経済、教育、環境、政治グループごとに  
調査研究の成果を発表



真剣に発表を聞く先生方

#### 参加した大学生の声

#### 一生つきあっていけるアジアの仲間をみつけた！ 村上春菜（早稲田大学）

「かめのり地球青少年サミット2017」に参加し、アジアが一つになる瞬間を自分の目で見たような気がしました。7地域・国から集まった学生たちと1週間、一緒に暮らし、何時間も話し合いを重ねた結果、最終日にはお互いの国の言語を交換し、理解を深め、一生付き合っていける仲間を見つけることができました。

会議だけでは時間が足りず、中国人のルームメイトとは日中関係について夜な夜な話しかけていたほどでした。アジアの現状や未来に関して、それぞれの国の学生が意見を交換している様子はとても刺激的で、さまざまな気づきがあり、改めてコミュニケーションの大切さを実感

できる時間でした。

参加しているアジアの学生は、自分よりプレゼンテーションが上手く、積極的に質問ができ、母国語でない英語を使い、難なく意見を出せる、尊敬できる同世代の学生ばかりで、自分の未熟さを痛感しました。世界にはこんなにもかっこいい同世代がいることが分かり、自分もまだまだ頑張らないといけないという原動力になりました。

現在、私は北京大学に留学をしながら、KEYSで出会った北京大学の4人の学生に日々助けてもらい、ランゲージパートナーとして中国語を教えてもらっています。KEYSでの縁はこれからも大切にしていきたいと思っています。

詳細はかめのり財団ホームページでもご覧いただけます。  
[http://www.kamenori.jp/keys\\_jp.html](http://www.kamenori.jp/keys_jp.html)

かめのり KEYS で 検索

## かめのりスクール2017

日本とアジアの中高生が交流を通して相互理解を促進することを目的として、今年も「かめのりスクール2017」を実施しました。今年度は「かめのりスクール@御殿場」の前に、アジア生のみ参加の「かめのりスクール@東京」を実施。まず日本への理解を深めてからという2部構成で行いました。



アジア生10名と日本の中高生20名が集合

### 「かめのりスクール@東京」

2017年7月23日(日)～28日(金)

「かめのりスクール@東京」は、アジア5カ国(インドネシア、マレーシア、タイ、中国、韓国)より招へいされた日本語を学んでいる高校生10人のための「日本を知る6日間のプログラム」です。1日ごとにテーマを設定し、日本のさまざまな表情を体験しました。「新しい日本」のテーマでは、大学生スタッフと一緒に新宿、渋谷、原宿を歩き、人の多さと街のきれいなことに驚いていました。「古い日本」では、和太鼓、茶道体験、歌舞伎座ギャラリー、江戸東京博物館見学、浅草散策など伝統文化に触れる機会を持ちました。「アニメの日」には三鷹の森ジブリ美術館と秋葉原へ。アニメに関心を持っている生徒が多く、お土産の買い物もできて満足な様子でした。2泊のホームステイでは日本の家庭生活を体験。ホストファミリーと対面したときは緊張した面持ちでしたが、ホームステイから戻ってきたときには「楽しかった!おいしかった!」と最高の笑顔を見せていました。



みんなが一番行ききたかった秋葉原



「アジアの旗」を考えました!



グループワークは伝える努力も必要

### 「かめのりスクール@御殿場」

2017年7月28日(金)～31日(月)

7月28日(金)、いよいよ「かめのりスクール@御殿場」が始まりました。アジア生10人に日本人中高生20人が加わり、バスで御殿場のYMCA 東山荘へ。夜のチームビルディングではグループごとに「アジアの旗」を作成。皆がアジアの一員であることを認識し、アジアへの期待や希望が込められた素晴らしい旗が5枚できあがりしました。

かめのりスクールの目標は、コミュニケーション能力を伸ばす、協力してタスクをやり遂げる、異なる文化を持つ人との交流を楽しむ、の3つ。テーマは昨年に引き続いて「つたえる・つたわる」です。伝えたいことをどう伝えたらきちんと伝わるのかを考え、最終日にその成果をスキットとポスターで発表しました。グループごとに与えられたトピックは「探求する」「思いやる」「挑戦する」「支えあう」「認め合う」の5つ。他のグループにはトピックを開示せず、発表してから伝わっているかを確認するという難しいタスクでしたが、どのグ

ループもトピックを深く掘り下げており、見る側にきちんと伝わっていました。

3日目の午後からは、2017年1月に「かめのり中高生アンバサダープログラム(KTAP)」でフィリピンに派遣された7名が合流し、フィリピン体験を発表。アジア生もそれぞれの本国の生活についての発表をしました。どれも興味深い内容で、日本人中高生にとってアジアへの理解を深めるよい機会となりました。

4日間という短い期間でしたが、考え、話し合い、ぶつかり合い、協力して作り上げていく過程で皆とても仲良くなり、日本人中高生がバスを降りるときは涙の別れとなりました。アジア生は翌日それぞれの国に帰っていきましたが、参加者一人ひとりの心の中に蒔かれた「コミュニケーション力、協働力、異文化理解力」の種が、将来花を咲かせ、実となることを願っています。

報告:かめのり財団 橋本成子



セッションはアドバイザーのサポートも



昼休みは外でリフレッシュ

### アジア生の声

- 異なった地域や国から集まったメンバーでグループ活動をするには、チームワークがとても重要。
- スキットやグループ活動を日本語で行うのはとてもチャレンジングでした。
- 自分も、皆のように色々なことに挑戦できる人になりたいと思いました。

### 日本人中高生の声

- 自分の「当たり前」と他の人の「当たり前」が全然違うということを知りました。
- 今後は学校のグループ活動でももっと積極的になりたいと思います。
- かめのりスクールでの経験を活かし、今後は初対面の人と話す時はもちろん、知っている人たちと話す時も、自分の考えをしっかりと伝えていきたい。
- 異文化交流の難しさと楽しさを知りました。

## 大学院留学アジア奨学生 夏の研修交流会 in 広島

かめのり財団には、アジア各国からの大学院生を支援する奨学生制度がありますが、その奨学生同士が一堂に会し、お互いの研究内容の発表をしたり、ネットワークをさらに強化することを目的に「夏の研修交流会」を行っています。今年も10名の奨学生と卒業生が参加して2017年9月10日(日)～12日(火)まで、広島で開催されました。

厳島神社での集合写真



広島お好み焼きも楽しめました



### 「研修&観光で絆も深まりました!」

文：蔡珂(サイカ)(千葉大学)

9月10日(日)からの3日間、かめのり財団のアジアからの大学院奨学生が集まって「夏の研修交流会」が、今年は広島で行われました。山と海に囲まれている広島市はすごくきれいでした。

1日目は、奨学生たちが各自の研究について発表しました。みなさんとても熱心で、議論もたくさんしました。それぞれの研究分野は違いますが、各自の視点から議論を深めました。2日目は、奨学生の研究発表のほか、OBたちのミニ講義と事務局長の西田先生の特別講義もありました。研究と人生の先輩たちは、それぞれの道にある悩みや困難などを語って、とても意味深い内容でした。研究だけではなく生活の話もあって、その場で終わらない話は後の食事会で、広島焼を食べながら盛り上がっていました。3日目は、世界遺産の厳島神社と広島平和記念資料館に行きました。厳島神社に行く前に雨が降りだしてきて心配しましたが、船に乗る頃にはだんだんと晴れてきて、ラッキー!とみんな嬉しかったです。

短い3日間でしたが、充実した研修に観光も加わり、みんな満喫していました。夏の研修交流会は、笑いも感慨もあり、かめのりファミリーのみなさんと一緒にたくさんの思い出が作れてよかったです。これからますます素晴らしい思い出をたくさん作っていきたいと思います。



### 「平和記念資料館で 核兵器の恐ろしさを実感した」

文：胡新祥(コシンショウ)(立教大学)

わたしは立教大学文学研究科博士課程4年生になり、今年の3月をもってかめのり財団の「大学院留学アジア奨学生」を卒業しました。しかし大学院奨学生たちが一同に集まった「夏の研修交流会 in 広島」に、卒業生として参加することができました。毎年恒例となり、今年で4回目となるこの夏の研修交流会は、それぞれ違った研究分野の方々たちと切磋琢磨する機会であり、奨学生同士の絆をより深める場でもあります。今年も皆さんの研究発表を聞き、視野が広がるとともに、わたしの研究にとっても、またわたし自身の成長のためにもたくさんの良い刺激をいただきました。

そして、今年の開催地は広島なので、当然のことながら世界遺産の原爆ドームと厳島神社を見学しました。平和記念資料館では数々の遺品を通して核兵器の恐ろしさを知り、戦争はあってはならないと固く思いました。一瞬の間に、尊い命を奪われた広島市民の人々のことを思うと、わたしはとても悲しくなりました。一握りの軍人たちの野望がアジアの人々だけでなく、結局自国民にとんでもな



西田事務局長の特別講座



休憩時間を利用して真剣に議論する奨学生たち

い悲劇を招いたのです。

博士課程を卒業した後、わたしは中国へ帰る予定です。今まで大変お世話になり、本当に心から感謝しています。これからどこにいてもかめのり財団での思い出を忘れず、かめのり財団の一員であるという自覚と誇りを持って真剣に仕事に取り組みます。



# にほんご人フォーラム 2017 (日本) [Japanese Speakers' Forum 2017 in Japan]



発表会后、みんなで記念撮影(撮影:小林 司)

東南アジア5カ国(インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシア、ベトナム)の中等教育機関で日本語を教えている教師と日本語を勉強している高校生、そして日本の高校生が、ともに学び交流する「にほんご人フォーラム」。今年は、国際交流基金日本語国際センター(埼玉県さいたま市)で2017年8月18日(金)から始まり、教師は14日間、高校生は10日間のプログラムに参加しました。



浅草見学では日本の文化にふれました

## 「にほんご人フォーラム」とは

かめのり財団と独立行政法人国際交流基金の共催事業。国際社会で日本語を使って協働できる「にほんご人」が増えるように、これからの時代に求められる能力を培うための外国語教育、日本語教育について考え実践するとともに、中等教育における「にほんご人」ネットワークを形成し、若い世代の相互理解の促進とグローバル人材の育成を目指しています。

## 日本語教師たちは

参加教師13名のそれぞれの国では、これからの時代を担う若者たちにとって必要な能力を育てることが教育政策上重視されてきており、このため外国語教育のアプローチの転換が図られています。教師たちは、そのような自国の新しい教育方針を踏まえて来日前に作成してきた授業案を、他国の教師と何度も議論して改善し「実験授業」の形で実践しました。すべての教師が国ごとに交代で授業を行い、担当以外の教師もファシリテーターやサポート役となり、全教師と一緒にすべての授業を体感しました。そして授業後は時間をかけて振り返りをおこない、具体的な改善につなげました。

また、昨年に引き続き新しい能力を評価する方法についても検討を重ね、「Collaboration(協働)」と「Creativity(創造性)」の評価表を作成し、生徒たちの活動を実際に評価してみました。

教師たちはそれぞれの経験とアイデアを持ち寄って議論し、悩みを共有し、お互い励ましあいながら14日間を過ごしました。この経験と成果をもとに次のステップに進んでいくことが期待されています。

## 高校生たちは

東南アジア5カ国と日本から4名ずつ、総勢24名の高校生たちは「いろいろな人がいることを楽しもう!」という共通課題について考えて発表しました。寝食を共にして、協働で課題に取り組み、和太鼓や浴衣の着付けなどを一緒に体験して仲良くなり、意見を出し合えるようになりました。言いたいことがうまく伝わらず、悔し涙を流す生徒もいました。「いろいろな背景や価値観をもつ人々と、うまくやっていくにはどうしたらよいか」を一生懸命考える10日間となりました。今回も、日本の大学生4名がファシリテーターとして生徒たちをあたたくサポートしました。

発表会では、自分たちで考えた「いろいろな人が一緒に楽しむための取り組み」について日本語で披露。「ワールドキャンプ」「カルチャーダンス」といったテーマで、会場にいたみんなを巻き込む楽しいパフォーマンスもありました。

今回で5回目となるフォーラムですが、それぞれの国に持ち帰り共有されて、授業等の現場で成果が生かされることを期待しています。

報告: 国際交流基金 日本語国際センター 岸本由紀子



より良い授業をめざしての実験授業風景



一日の活動の振り返りでその日を締めくくる

# ベトナム高校生にほんご人100人訪日事業

全員できれいなゆかたの着付け体験を楽しみました

ベトナムでは日本語を学ぶ高校生が多く、日本語学習の基盤をさらに強固なものとするために、「にほんご人高校生」とその教育関係者に訪日の機会を提供する事業を、国際交流基金とともに2016年から3年間にわたり展開しています。2017年も6月13日(火)から約1週間余り、52名のハノイ、ダナン、フエの高校生とその教育関係者が日本に滞在し、日本理解を深めるさまざまな体験をしました。

## 日本で活躍するベトナム人や同世代の生徒と交流

ベトナム高校生にほんご人100人訪日事業の特徴は「多様性」です。多様な人々と交流し、多様な日本文化と日本事情を体験し、生徒に多様な進路を見せるプログラムがバランスよく組み込まれています。

まずは多様な人との交流についてお話ししましょう。まず、関東国際高校と東京学芸大附属国際中等教育学校の生徒、そして東京外国語大学では、ベトナム語を学ぶ大学生たちと交流しました。言葉を少し交わただけで親しくなれるのは、同世代だからこそです。ベトナムに親しみを持つ同世代の日本人との交流は生徒たちには強く印象に残ったようです。

また、日本で学ぶベトナム人留学生、同行した通訳やベトナム人スタッフとの交流からは日本で生活するベトナム人の現実を学びました。大先輩たちが日本語を使って活躍するのを目の当たりにし、自分の将来を描いた生徒もいたのではないのでしょうか。そして忘れてならないのは、ベトナム国内の異なる地域の生徒たちとの出会いです。日ごろ接触のないベトナムの高校生同士、地域を超えて日本語で繋がる仲間ができたことは、きっと生徒たち、先生たちにとっても今後の励みになることと思います。



関東国際高校では授業を一緒に受講



明治神宮に参拝



ベトナム留学生に留学体験を聞く

## 日本の「見えない文化」を体験

多様な文化体験の面では、ゆかたの着付けや小学生との太鼓演奏、箱根や浅草観光などの体験だけではなく、たとえばホテルでの過ごし方や、電車の乗り方、コンビニやスーパーでの買い物、ごみの捨て方、日本の人々とのやりとりを通して、日本で過ごす上での「見えない文化」に生徒たちは気づき、それに適応していきました。これは実際に日本で過ごさなければ体験できないことですし、先生から教えられただけでは理解できないことでしょう。

日本語を学ぶ生徒たちは自分の進む道を「日本語」に絞りがちです。しかし本事業では大学と専門学校を訪問し、生徒たちに多様な進路を示しました。早稲田大学では行動経済学のミニ講義でその一端に触れ、東京デザイナー学

院、東京ネットウエイブでは、マンガ、アニメ、服飾デザイン、メイクアップなど様々なコースを見て回りました。これを通して生徒たちは日本で学べる多様な分野について知り、日本留学に希望を膨らませたのではないのでしょうか。

こういった多様な内容のプログラムに加え、多感なこの時期に親と離れて母国とは異なる文化の中で過ごした体験が生徒を大きく成長させました。ダナンでの帰国報告会では、生徒の保護者からこの事業への参加によって子どもが自立したとの声が多く聞かれました。この面においてもこの事業は非常に意義のあるものだと言えるでしょう。

報告：国際交流基金 ベトナム日本文化交流センター  
黒田 朋彦



東京外国語大学ではベトナム語を学ぶ学生と交流



歓迎会では日本語で自己紹介



東京を離れ、箱根では日本の自然を満喫しました



ゆかたはなかなか大変



最終日にはすっかりうちとけて

## ベトナム中学生日本語キャンプ2017

「ベトナム中学生日本語キャンプ2017」は、2017年7月24日(月)～26日(水)にハノイ郊外で開催されました。5つの都市・地域(ハノイ、ダナン、フエ、ホーチミン、ビンズオン)で日本語教育が導入されている中学校27校から生徒54名、教師25名が参加しました。3日間にわたる様々な活動は、生徒にとって日頃の日本語学習の成果を発揮する場であるとともに、地域の垣根を越えて交流する機会となりました。

今年で5回目を迎えた本キャンプは「新しい仲間と新しい自分を探す冒険」をテーマに、グループに分かれ日本語劇を制作し、最終日

に演じました。日本語劇の制作および上演は、日本人の中学生にとっても容易なことではないと思います。ベトナム人の中学生にとっては、それを外国語である日本語で行うことになるため、個々人の日本語能力を最大限発揮する必要があり、また創造性や一丸となって取り組む協調性、協働性も求められます。各グループとも創意工夫にあふれる日本語劇を演じ、上演後の達成感に満ちた生徒の表情が印象的でした。

参加教師は生徒の引率に加え、活動の様子を観察し生徒の新しい一面を見つけ、メッセージカードに記入し生徒に手渡しました。教室外で見た生徒の意外な一面や創造性の豊か

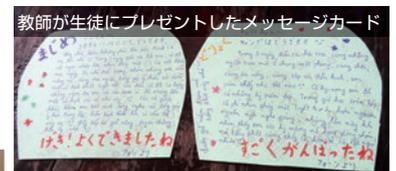
さに驚きをもって受け止める教師も見受けられました。また、ファシリテーターとして大学生ボランティアが各グループに入り、生徒の活動を温かくサポートしました。

本キャンプを通じて知り合った仲間や得た達成感を糧に、生徒がより一層日本語に関心を持ち、学習を続けてくれることを願っています。

報告：国際交流基金 ベトナム日本文化交流センター  
大澤 信利



日本語を学ぶベトナムの中学生とその教師たちがハノイ郊外に集合



教師が生徒にプレゼントしたメッセージカード



グループで、劇の台本作り



3日目には、創作した日本語劇を演じる

## 高校生短期交流プログラム

公益財団法人 YFU 日本国際交流財団との共催事業として、2017年も日本人高校生10人を夏休みの約1カ月間、韓国に派遣しました。ホストファミリーと生活しながら、現地の高校に通うという貴重な体験をしました。その高校生の感想を紹介します。

■ 韓国は上下関係に厳しいと聞いてはいましたが、まさにその通り。韓国語自体、年上と年下でキッチリと分かれています。先生には「もう1度言ってください」ですが、同世代の友人なら「もう1回」、つまり「タシ?」でOK。うっかり先生に「タシ?」と言ったら、教室中大笑いされました。

■ 行く前は、反日の人と出会ったらどうしよう?と不安でいっぱいでした。実際には、いろいろな人が日本語で話しかけてくれました。とくにアニメ好きの若い人は日本にとっても興味をもっています。

■ 学校の授業以外の学習時間について聞いたところ、毎日大体3～4時間、中には6時間以上も勉強する人もいて、とても刺激を受けました。

■ 韓国の高校生は自分に自信をもって生きているように見えます。授業中もみんな積極的に発言するし、まちがっても恥ずかしがったりしません。私は人の視線を気にし過ぎるところがあるので、見習いたいと思いました。

日本語の授業で使う教科書



給食のサムギョブサル

## 第4回高校生カンボジアスタディツアー

2017年8月5日(土)～12日(土)、かめのり財団と公益社団法人日本ユネスコ協会連盟との共催による「第4回高校生カンボジアスタディツアー」が実施されました。国際協力の現場への訪問や現地の人々との交流を通して、カンボジアへの理解を深め、ひいては国際社会、地域社会の課題解決に貢献する若者を育成することを目的とし、全国から選抜された10名の高校生が参加しました。

出発前日(5日(土))の研修ではかめのり財団職員による「異文化体験ワークショップ」、参加者の「事前学習発表」を通じ、初めて会った参加者の距離が一気に縮まると共に、各自がツアーで学びたい課題を共有することができました。

参加者が学習課題として掲げた関心分野は「教育」「貧困」「ジェンダー」「伝統文化」「農業」「食・栄養」「スポーツ振興」など多岐にわたるものでした。プノンペンでの在カンボジア日本国大使館、UNESCO事務所への表敬訪問では時間切れになる程の積極的な質疑応答がなされ、多くの学びがありました。

国立博物館、キリング・フィールド、ツールスレン博物館では古代からの歴史や文化と、人口の約3分の1とも言われる大勢の国民が犠牲になったポル・ポト政権時代の負の歴史を学びました。キリング・フィールドの慰霊塔で自然に手を合わせ、花を手向ける姿からは、平和の尊さを再認識する機会にもなったことを感じました。

プノンペンから約300キロのシェムリアップでは日本ユネスコ協会連盟が支援する2つの寺子屋(識字教育、職業訓練等の学習施設)を訪問しました。貧困などのため小学校を中途退学した子どもたちが学ぶ「復学支援クラス」の授業に参加し、日本から持参したなわとびや折り紙のほか、カンボジアのゲームなどで密接な交流をし、楽しい時間を過ごしました。



カンボジアは遺跡の宝庫。バイヨン寺院で全員集合



多くの人が犠牲になった  
キリング・フィールド慰霊塔



リエンダイ寺子屋で一緒に学ぶ

また世界遺産アンコール遺跡群バイヨン寺院での石像修復体験、ティー・チアン一座でのカンボジア伝統影絵芝居と楽器演奏体験も大変思い出に残る内容でした。

最終日には各自がツアーで発見したことを発表。異なる課題を持ったメンバーから学ぶところも多く、視野が広がったという声も聞かれました。インターネットや書物から得たものではないカンボジアを10名の仲間と共に経験した8日間。国際協力の現場で活躍する多くの日本人や世界各国の人々の姿を目の当たりにした高校生たちが、将来の夢とグローバルな生き方に向けて、今後大きく飛躍してくれることを確信しました。

報告：日本ユネスコ国内委員・新潟市ユネスコ協会事務局長  
横山恵里子

## 講演会

かめのり財団では、異文化交流に資する講演会を実施していますが、2017年7月22日(土)別府大学に於いて、本財団理事王敏法政大学教授の講演会を実施しました。

「黄瀛(コウエイ)、宮沢賢治、草野心平 三者にかかわる話」と題して、大正末期に彗星のように登場した詩人黄瀛と当時の詩壇を代表する人々との交流や、その後日中戦争、文化大革命と時代に翻弄された生涯を紹介しました。黄瀛は別府大学の創設者佐藤義詮とも交流があり、王敏の恩師でもあるという縁でした。



### 今後の予定

- 2017年 11月 第9回中学生交流プログラム実施(中国派遣)
- 2018年 1月 かめのりフォーラム2018
- かめのりセッション2018
- かめのり中高生アンバサダープログラム(フィリピン派遣)

発行人 / 西田 浩子 編集/悠プランニング デザイン/イワブチサトシ (BUTI design) 印刷 / 佐伯印刷株式会社



日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を支援します!

公益財団法人 **かめのり財団** The Kamenori Foundation

〒160-0011 東京都新宿区若葉 1-22 ローヤル若葉 211

TEL : 03-3234-1694 FAX : 03-3234-1603

E-mail : info@kamenori.jp URL : http://www.kamenori.jp/